茨城県議会「県民との青空対話議会」（令和３年９月２５日）の開催要旨

新型コロナウイルスの感染収束がなかなか見通せず、県民の生活や経済活動に大きな影響を及ぼす中、県民の皆様の声を直接聴き、県議会での審議に活かすため、様々な分野の県民の皆様と県議会の正副議長、正副常任委員長が一同に会する「県民との青空対話議会」をオンラインにより初めて開催しました。

有識者の皆様からは、コロナ禍の事業環境や、行政に望む支援・役割、今後の取組の展望などの視点からご意見をいただき、所管の常任委員長がそれぞれコメントしました。その要旨を掲載しました。

１　有識者の皆様のご意見と委員長コメント

田﨑　享太朗さん

石岡青年会副会長

若松町青年会　会長

コロナ禍にあって、昨年から中止になっている石岡のおまつりなど地域に根ざした地域行事をどのような条件で開催できるか、住民自らが考えていくことが大事である。また、これを考えることは様々な課題を解決するもとになる。

⇒**【戸井田総務企画委員長】**コロナ禍の中で石岡のおまつりが開催されるよう、これまで議論を重ねてきたが、緊急事態宣言が出され開催できず、同じ仲間として大変悲しい思いだが、この議論は決して無駄ではなく、次へのステップに繋がっていく。県内各地でお祭りが途絶えてしまう事実もあり、県議会としても、文化事業、伝統文化継承に力を入れながら、県全体が盛り上がるよう取り組んでいきたい。

望月　剛久さん

国立研究開発法人　産業技術総合研究所

エネルギー・環境領域　エネルギープロセス研究部門

エネルギー触媒技術グループ　グループ長

日本は温室効果ガス排出削減のため、２０５０年のカーボンニュートラルを目指す方針がでた衝撃は企業にとっても大きい。真剣な対応の問い合わせが多い。再生可能エネルギーなどエネルギーのベストミックスが重要で、バイオディーゼル燃料等の新エネルギー開発やカーボンリサイクルの取り組み等がカギとなるが、コストや技術の確立、研究人材の確保などが課題である。

⇒**【星田防災環境産業委員長】**今後の大きな課題である２０５０年カーボンニュートラルの実現に向け、我々一人一人が生活の中で、新エネルギー等に取り組むとともに、企業も一緒に取り組んでいかなければならない。研究者の人材不足など大きな課題もあり、国及び県は、研究機関への支援や連携をしっかりと行い、将来的な課題をともに解決していく必要がある。

宮地　綾希子さん

atowa design　一級建築士事務所　主宰

茨城県北ローカルベンチャースクール事務局、茨城県北ローカルベンチャーラボ事業現地コーディネーター

Hitachi frogs Organizer 兼 mentor

コロナ禍では、オンラインで世界中の人々とコミュニケーションがとりやすくなった一方で、「人と心の距離を縮めにくく、価値を実感しにくい」という課題もある。若い人たちは働く「場」を柔軟に選択する他に何かでてきた。行政には空き家資源などの「場」の有効活用や安全な交流のための投資援助・促進など「場」を「閉じるのではなく、安全に拓く・繋がる支援」を求める。

⇒**【星田防災環境産業委員長】**コロナ禍で生活を含め様々なことが変わり、ネットを通じて海外に目を向ける方が増え、様々な形で、様々な場所で、様々なことができるようになった。茨城県には多くの空き家があり、この資源を活用して、多くの方が場所を選ばずに豊かな生活と充実したビジネスができる可能性を強く感じた。県全域が元気になるためには、過疎地域や特に空き家が多い地域が元気になることが重要である。

根本　幸子さん

ＮＰＯ法人あっとホームたかまつ　代表

子どもを取り巻く環境は、共働き世帯・ひとり親世帯の増加や核家族化が進む中、親子間のコミュニケーションの減少、状況や環境への対応能力の低下などが課題となっている。生きる力、意欲、自立を育む場、自分で考え創意工夫する場、物事に熱中体験できる場として、学校でも家庭でもない第３の居場所が必要不可欠である。

⇒**【岡田保健福祉医療委員長】**様々な事業運営に感謝致します。

ご意見内容については、我々議会としても重要な課題だと認識をしている。こうした課題は、行政と現場における、施策の実施までの時間軸に相当のずれがあることが多い。県議会として、現場の声にしっかりアンテナを張り、迅速に課題解決をしていきたい。

上野　貴則さん

舘最中本舗　有限会社　湖月庵　代表取締役

コロナ禍においても、地域おこしや地域活性化のための様々な活動ができるよう、行政には効果的な広報の支援や地域おこし協力隊員が任期終了後も、その知見を生かして継続的に活動できるような支援が必要である。

⇒**【鈴木営業戦略農林水産委員長】**上野さんは、生業だけではなく、ＪＲ等と連携した様々な地域おこしをされ、また、地域おこし協力隊の皆様には、地元では思いつかないような新鮮な意見をいただいている。そうした方々の生きた経験や取り組みが活きる行政運営となるよう、県議会から繋いだり、意見を出したりすることで、適時、県の交流人口の拡大や農林水産物の振興、さらにプロモーション拡大に努めていきたい。

長谷川　博之さん

西尾レントオール株式会社

建設業界では、コロナ禍でサーモグラフィカメラや遠隔臨場システムなどの需要が高まっている。ＩＣＴ技術の普及には、民間と行政が連携し、高度な技術に対応できる人材育成を図る必要があり、今後は、ＤＸの推進、建設機械や農業機械の自動化・ロボット化で生産性の向上が予想されるため、民間と行政が連携して先端技術に関する情報を広める必要がある。

⇒**【加藤土木企業立地推進委員長】**国土交通省の指導もあり、自治体にもＩＣＴ技術の現場普及が広がる。土木分野、建設現場でのイノベーションとして、３次元計測やＡＩの活用等も期待できる分野だが、高額な機材や操作できる人材が必要となるため、民間による技術力、人材育成といったサポートが必要不可欠である。

角　新一さん

中学生を対象とした学習塾経営

どんなに優れた機械（ＩＣＴ機器）でも「教える」ことはできるが「育む」ことはできず、人が関わらなければ教育は成立しない。「育む」には指導者の「見る」が必要だが、学校の先生には余裕がない現状であり、「教える」は上手に機械を利用し、先生方には「育む」ことに集中できる環境を整備することが必要である。

⇒**【田口文教警察委員長】**今年の文教警察委員会の重点テーマは、「学びの変革」である。教育とは何なのかを本質的に問い続ける必要がある。教育は、知恵やノウハウを教えるだけなく一緒に伴走し、その子の成長を見届けることも必要である。ＩＴ技術やオンライン、録画等で知識を教える工夫し、育む時間を作ることも可能である。県議会としても教育の課題解決に知恵を絞り、勇気を持って実行に移し、教育にしっかりと対応していきたい。

２　フリートーク（意見交換）

【上野貴則さん】県議会広報紙で、各地から選出されている県議会議員の持ち回りで「おらが町自慢大会」的に地元の魅力をＰＲすれば、地域の魅力を知るマイクロツーリズムにつながり、県全体の魅力向上が図れるのではないか。

⇒**【石井副議長】**「県議会だより」では、表紙等で各地域の観光地やイベントなどの情報を発信している。現在、県議会改革推進会議の議論を踏まえて、県議会ホームページの活用や新たにＳＮＳの活用などを検討しているので、今回のご意見を参考に、本県の魅力度ＵＰにつながるよう、情報発信のさらなる充実強化に取り組んでいきたい。

※**【根本幸子さん】**からは、「キッズボランティアプログラムの実施」や「民間事業者（ＮＰＯ法人など）への行政からの委託事業の自由度の見直し」に関する要望がありました。

３　常井議長のまとめコメント

田﨑さんは、石岡のおまつりを頑張っておられ心強い限り。コロナ禍で各種行事がやりにくい中で、歴史や文化をきちんと次世代に伝承していくことは非常に重要で、工夫を凝らし取り組みたい。

望月さんは、茨城県の宝である産総研の研究者の目からお話いただいた。水よりも安い燃料を造らなければならないという非常に高いハードルや研究者の確保等も課題であることをお伺いした。私は、産総研は、茨城県の宝物だと思っており、今後は、研究者の方々と一緒になって茨城県が取り組めるものは何かをともに考えていきたい。

宮地さんは、多方面で活躍されているが、コロナ禍でオンラインミーティングの良い点、悪い点をお話いただき、働き方に変化の流れがあることを改めて実感した。空き家の活用は、市町村が主体でマッチングに工夫が必要だが、私の地元の笠間でも少しずつ軌道に乗りつつある。自分らしい過ごし方ができる動きに県議会としても対応していきたい。

根本さんは、子供たちの生きていく力をどう育むか、非常に苦悩されている。子供たちの第３の居場所が、昔のおじいさんおばあさんの役割を果たすところとして非常に貴重な場にもなっている。そういうところに対する様々な支援を、県としてもやっていかなければならない。

上野さんには、美味しい和菓子づくりを末永く続けていただきたい。生業の傍ら、地域おこしにご尽力いただいている。地域おこし隊の任期が３年で切れてしまうため、人脈や知見が引き続き生かされる方策が必要なことも改めてわかったので、今後、委員会でも取り上げてほしい。

長谷川さんには、建設業界におけるＩＣＴの重要さ、その普及には人材育成が非常に大事だというお話いただいた。ＩＣＴ活用を継続しないと、せっかく習得した技術知見も、また戻ってしまうということ。生産性の向上や安全確保の観点や、「旧い３Ｋ」から「新しい３Ｋ」というお話もあり、今後のＤＸの導入等を含めて、ＩＣＴの重要性を改めて認識した。

角さんには、教育は機械（ＩＣＴ機器）に置き換えることはできないということで、「育む」ことの大切さ、子供をよく「見る」ことが、しかったり、褒めたりする一番のもとになるというお話をいただいた。学校の先生の心に余裕ができるような教育形態をどう取っていくかは非常に重要。コロナ禍の中で、我々が使い始めたＩＣＴ技術が、子供たちの本当の教育にうまく繋がってほしい。そういう意味で、教育のあり方そのものに対して発想転換の必要性を改めて認識した。

県議会としては、本日の皆様方のご意見に対しまして、今後、議論を深め、県政にできる限り反映して参りたい。

＜常井議長による進行・まとめ＞

＜県議会議事堂第１応接室＞